

No.	作品名	産地	品質	時代	法量(cm)	コレクション/備考
18	鉄絵孔雀文管耳瓶	カロン窯	陶器	タイ 14~15世紀	高さ16.2	17-Ha-260
19	印花象文壺	スパンブリ	陶器	タイ 14世紀	高さ40.5	17-Ha-234
20	灰釉盤口小壺		陶器	カンボジア 10~11世紀	胴径8.9	17-Ha-016
21	灰釉・黒褐釉掛分盤口瓶		陶器	カンボジア 11~12世紀	高さ15.6	17-Ha-029
22	黒褐釉盤口長頸壺		陶器	カンボジアまたはタイ 12~13世紀	高さ23.3	17-Ha-030
23	黒褐釉人面文瓶		陶器	カンボジアまたはタイ 12~13世紀	高さ29.2	17-Ha-028
24	黒褐釉鳥形把手付水注		陶器	カンボジアまたはタイ 12~13世紀	胴径22.7	17-Ha-031
25	黒褐釉刻花文蓋付壺		陶器	カンボジアまたはタイ 12~13世紀	高さ19.0	17-Ha-036
26	黒褐釉象形壺		陶器	カンボジアまたはタイ 12~13世紀	胴径16.5	17-Ha-042
27	黒褐釉蟻喰形壺		陶器	カンボジアまたはタイ 12~13世紀	胴径12.5	17-Ha-043
28	黒褐釉鳥形小壺		陶器	カンボジアまたはタイ 12~13世紀	高さ9.4	17-Ha-038
29	黒褐釉鳥形小壺		陶器	カンボジアまたはタイ 12~13世紀	高さ12.0	17-Ha-041
30	黒褐釉鳥形小壺		陶器	カンボジアまたはタイ 12~13世紀	胴径9.0	17-Ha-039
31	灰釉鳥形小壺		陶器	カンボジアまたはタイ 12~13世紀	胴径11.4	17-Ha-057
32	青磁瓜形蓋付水注		磁器	ベトナム 13世紀	高さ17.5	17-Ha-317
33	鉄絵高土花喰鳥文壺		陶器	ベトナム 14~15世紀	高さ27.8	17-Ha-336
34	青花牡丹唐草文壺		磁器	ベトナム 15~16世紀	高さ38.0	17-Ha-356
35	青花珠取龍文大壺		磁器	ベトナム 16世紀	高さ41.5	17-Ha-362
36	青花舟遊文広口壺		磁器	ベトナム 15~16世紀	高さ21.5	17-Ha-363
37	青花鳳凰文瓶		磁器	ベトナム 15~16世紀	高さ28.9	17-Ha-367
38	青花鯰文盤		磁器	ベトナム 15~16世紀	口径36.5	17-Ha-372
39	五彩麒麟文盤		陶器	ベトナム 15~16世紀	口径39.0	17-Ha-409
40	五彩花喰鳥文盤		陶器	ベトナム 15~16世紀	口径35.3	17-Ha-410
41	五彩菊唐草文四耳合子		陶器	ベトナム 15~16世紀	高さ10.2	17-Ha-414
42	緑釉刻花文鉢		陶器	ベトナム 14~15世紀	高さ12.5	17-Ha-423
43	白釉緑彩花鳥文盤		陶器	ミャンマー 15~16世紀	口径30.5	17-Ha-289
44	白釉緑彩花文盤		陶器	ミャンマー 15~16世紀	口径29.0	17-Ha-290
45	白釉緑彩花文盤		陶器	ミャンマー 15~16世紀	口径28.5	17-Ha-291
46	白釉緑彩仏塔文鉢		陶器	ミャンマー 15~16世紀	口径17.6	17-Ha-293
47	白釉緑彩刻花文鉢		陶器	ミャンマー 15~16世紀	口径17.5	17-Ha-294
48	緑彩舞踊人物文磚		陶板	ミャンマー 15~16世紀	高さ42.8	17-Ha-306
49 特別出品	触地印仏陀坐像		粘土焼成 (埴仏)	ミャンマー 11~12世紀	高さ17.3	17-Ha-307
50 特別出品	三軀の仏陀立像		粘土焼成 (埴仏)	ミャンマー 11~12世紀	高さ18.8	17-Ha-308

# 本多コレクション インドシナ半島の古陶磁

会期 2026年5月27日|水|-7月26日|日|

会場 古美術企画展示室



No13 白褐釉刻花龍鳳凰文水注



No35 青花珠取龍文大壺



No26 黒褐釉象形壺



No43 白釉緑彩花鳥文盤

本多コレクションは、大阪の医師で東南アジア美術の研究者・蒐集家でもあられた故・本多弘氏ほんだひろしより、平成8(1996)年と平成16(2004)年の二度にわたってご寄贈いただいたもので、インドシナ半島各地の陶磁を中心に収集された、総数756件の作品からなります。コレクションの大きな特色は、紀元前3600年に遡ると推定されるバン・チェン土器をはじめとして、17・18世紀頃までのインドシナ半島各地の古陶磁を網羅的に集め、また個々の作品が美術的にも価値の高いものによって揃えられている点にあります。特にタイとベトナムで施釉陶磁の生産が最も活発であった14世紀から16世紀頃の多種多様な作品を豊富に含んでおり、この地域の陶磁の発展と広がりを知るうえでこのうえない豊かな資料を提供しています。

第一次ご寄贈から30周年を迎える本年、当コレクションの名品展を開催いたします。タイ、カンボジア、ベトナム、ミャンマー(旧ビルマ)の古陶磁類の優品50点を精選し、インドシナ半島古陶磁の豊かな造形美をご覧に入れます。

(学芸員 後藤 恒)

## 先史時代の土器

タイ東部のウドン・ターニー県で発掘されたバン・チェン遺跡からは、青銅器や装身具などとともに、彩文や刻文で飾られた無釉の土器が夥しく出土し、その洗練された造形は、当域の先史時代の高度な生活文化を物語っています。東北部には他にバン・タマサート、バン・プラサートなど同様の集落遺跡が知られ、美しい彩色土器が出土しています。これらは科学的な年代測定法によって、最古のもので紀元前3600年頃にまで遡るものと見られています。前期の土器は黒色の器面に貝殻などを用いて力強い文様を陰刻したもの（**出品No.1**）が主流で、中期以降になると器面を磨いて赤の彩色を施すものや、薄手の器体に陰刻や彩色を施したのが見られます（**2・3**）。

## タイ

タイ中部の古都スコタイと、その北方約50kmの場所に位置するシーサッチャナーライは、13世紀半ばに成立したタイ族最初の統一王朝であるスコタイ王朝の首都と副都です。14世紀頃から本格的な窯業を開始し、15世紀にアユタヤ王朝に吸収されてからも、16世紀まで盛んな陶磁輸出政策の拠点として発展をとげました。

タイ陶磁の技法は中国陶磁の影響を強く受けながら、独自の発展を遂げます。自由闊達な絵付文様を特徴とする鉄絵（**4～6・14・15**）、透明感のある青緑色の発色が美しい青磁（**7～10**）、白釉と褐釉で彩った作品（**12・13**）はその代表例です。**13**の水注はインドネシアで出土したもので、イスラム教世界で用いられる水注を象っています。そのことは、当時ムスリム商人の台頭により急速にイスラム化していたインドネシアが、自国に本格的な窯業地をもたないために、こうした器をタイに依頼していた事情を物語っています。

製品はアユタヤ王朝の貿易政策を通じてインドネシアやフィリピン、西はエジプト、東は日本まで、海外に広く輸出されました。日本では中世末期以降、遠く東南の海の向こうから舶載されるタイ陶磁を「宋胡録」と呼んで珍重しました。その語源である「サワンカローク（Sawankhalok）」は「シーサッチャナーライ」が訛ったとされるもので、サワンカロークという名称自体も、スコタイとシーサッチャナーライ両地で焼かれた製品の総称として使われます。

本多コレクションには他にサンカンベン（**17**）、カロン（**18**）、パーンなどタイ北部の古陶磁も網羅的に集められています。13世紀末にタイ北部に建国されたランナータイ王朝下に操業されたとみられるこれらの窯址からは、鉄絵、灰釉、青磁など様々な種類の製品が出土しており、中部のスコタイ、シーサッチャ

ナーライとの複雑な影響関係が偲べれます。

## カンボジア

クメール族によるアンコール王朝（9～15世紀）は、一時はインドシナ半島のほぼ全域を席卷するまでに繁栄しました。有名なアンコール・ワット寺院やアンコール・トム都城が造営された11～12世紀に王朝は最盛期を迎えますが、それに伴って陶器の生産も活況を呈しました。

**20**は早期の作例で、素朴な造形に薄く掛けられた灰釉を特徴とします。灰釉は11世紀に最も盛んとなりますが、その後は黒褐釉（**22～30**）の生産が主流となって、次第に数を減らしていったと考えられています。王朝の勢力が拡大するにしたがって、クメール陶器の生産地は現在のタイ領域にも広がりました。施釉の種類は限られるものの、人物をかたどった器（**23**）、神の使いとされたゾウ（**26**）や鳥（**28～31**）、知恵のある動物として尊ばれたウサギなど、様々なモチーフが目を楽しませてくれます。それらは、遺物の大多数を占める瓶や壺とともに、アンコール王朝が誇る厳格にして壮麗な彫刻美を偲べさせます。

## ベトナム

インドシナ半島の東岸を細長く占める現在のベトナム領域において、古来、多彩な陶磁生産が最も盛んに行われたのは、長く中国の領域にあった北部でした。つねに中国文化の影響下にありながら、質の高い製品を生み出してきたベトナム工芸。その代名詞というべきベトナム陶磁の、華やかさと味わい深さを兼ね備えた独特な魅力は、こうした文化醸成の土壌の上に生み出されたのでした。

陳氏大越国（陳朝）の時代（13世紀初頭～14世紀）に、ベトナム陶磁は飛躍的な発展をとげました。その華やかな展開は、積極的な海外への輸出を通じて、続く黎氏大越国（黎朝）の時代（15世紀～18世紀）に引き継がれてゆきます。14世紀に中国で興った明王朝は、民間の自由貿易を禁止する海禁政策を実施しました。それによって減少した中国の輸出陶磁を補う形で、タイ陶磁と同じく、ベトナムの陶磁の輸出は開始されたとみられます。日本ではタイの「宋胡録」と同様に、舶載されたベトナム陶磁は「安南」と呼んで珍重してきました。また日本各地に多数出土するベトナム陶磁の陶片は、南海交易の一樣相と日本陶磁との関連性を示す資料として、人々の注目を集めています。

さて黎朝の時代において、最も優れた陶磁生産が行われたのは、同王朝の繁栄期にあたる15～16世紀のこととされます。それを代表するのが青花すなわち染付（**34～38**）と、五彩すなわち色絵（**39～41**）の

製品です。

ベトナム青花に見られる技法の特徴として第一に挙げられるのが、多くの器の素地に施された「白化粧」です。通常、青花の器の地をなす純白色は、透明釉を通して、白い素地の色が生かされたものです。しかしベトナムの磁土は、中国や日本の磁土に比べると、緻密さ、色、質感などの諸点で劣るため、通常の作り方では濁った地色が透けて、コバルトの絵付も冴えないという結果になります。そこで、釉薬を掛ける前に、鉄分の少ない白土を下地として化粧掛けする方法が採用されたのです。素地自体を純白に出来なかったという点で完全な磁器にはならなかったわけですが、はからずもそれは、味わい深いベトナム陶磁の魅力となっているのです。

15世紀後半になると、青花とともに、五彩の生産が盛んとなります。青花の絵付けが透明釉を掛ける前に施す、いわゆる釉下彩であるのに対し、五彩の絵付けは、透明釉の上に描いて低温で焼き付ける、いわゆる上絵付けである点が異なります。ベトナム五彩には、この両者を組み合わせた絵付け、つまり上絵だけでなく、青花を併用した作例（**39・40**）が少なくありません。時間も手間もかかるこうした装飾技法は、黎朝の後期に入るとますます華美なものとなり、金彩などを伴った豪華な大型作品へと結実してゆきます。

## 出品作品リスト

・都合により展示作品を変更する場合があります。

No.	作品名	産地	品質	時代	法量 (cm)	本多コレクション番号
1	黒陶線刻文広口壺	バン・チェン	土器	タイ	紀元前3600～前1000年頃	高さ25.9 17-Ha-001
2	彩陶磨製広口壺	バン・タマサート	土器	タイ	紀元前300～後200年頃	胴径19.7 17-Ha-010
3	彩陶広口長頸壺	バン・プラサート	土器	タイ	紀元前300～後200年頃	高さ20.3 17-Ha-011
4	鉄絵魚藻文盤	スコタイ窯	陶器	タイ	14～15世紀	口径25.7 17-Ha-066
5	鉄絵魚文壺	スコタイ窯	陶器	タイ	14～15世紀	高さ15.9 17-Ha-087
6	鉄絵宝輪文鉢	スコタイ窯	陶器	タイ	14～15世紀	口径21.2 17-Ha-078
7	青磁刻花牡丹唐草文盤	シーサッチャナーライ窯	磁器	タイ	15世紀	口径32.7 17-Ha-103
8	青磁刻花蓮華文鉢	シーサッチャナーライ窯	磁器	タイ	15世紀	口径20.1 17-Ha-115
9	青磁刻花蓮華文壺	シーサッチャナーライ窯	磁器	タイ	15世紀	高さ18.0 17-Ha-126
10	青磁迦陵頻伽形水注	シーサッチャナーライ窯	陶器	タイ	15世紀	高さ20.5 17-Ha-137
11	白褐釉象置物	シーサッチャナーライ窯	陶器	タイ	15世紀	高さ19.8 17-Ha-175
12	白褐釉刻花鳳凰唐草文壺	シーサッチャナーライ窯	陶器	タイ	15世紀	高さ18.9 17-Ha-169
13	白褐釉刻花龍鳳文水注	シーサッチャナーライ窯	陶器	タイ	15世紀	高さ27.4 17-Ha-170
14	鉄絵魚文台鉢	シーサッチャナーライ窯	陶器	タイ	15世紀	口径25.7 17-Ha-147
15	鉄絵草花文合子	シーサッチャナーライ窯	陶器	タイ	15世紀	胴径12.5 17-Ha-198
16	練上手ケンディ	シーサッチャナーライ窯	土器	タイ	14～15世紀	胴径13.3 17-Ha-160
17	鉄絵双魚文盤	サンカンベン窯	陶器	タイ	15～16世紀	口径25.8 17-Ha-235